

Trichoderma reesei RF8694 株を利用して生産されたフィターゼを原体とする飼料添加物に係る食品健康影響評価に関する審議結果(案)についての意見・情報の募集結果について

1. 実施期間 令和6年9月4日～令和6年10月3日
2. 提出方法 インターネット、ファックス、郵送
3. 提出状況 1通
4. 頂いた意見・情報及び食品安全委員会の回答

	頂いた意見・情報	食品安全委員会の回答
1	・ 19ページの略称等欄の「FEEDAP」は「FEEDAP Panel」のほうがよい。 ・ 19ページの JECFA の名称欄の2行目「WHO 合同」は「WHO： 合同」のほうがよい。	ご指摘を踏まえ、19ページの略称「FEEDAP」は別紙のとおり評価書を修正いたします。 ご指摘の19ページの略称「JECFA」の名称「Joint FAO/WHO Expert Committee on Food Additives：FAO/WHO 合同食品添加物専門家会議」の「：(コロン)」については、他の欄と同様に、コロン前に記載されている英語表記に対して、コロン後に日本語表記を示すために用いております。また、コロン後に記載の「FAO」及び「WHO」は、固有名詞であることから、日本語表記の一部として記載しております。この表記については、食品の安全性に関する用語集(第7版)での「JECFA」の日本語表記とも合わせて記載しております。

※頂いたものをそのまま掲載しています。

(別紙)

飼料添加物評価書「*Trichoderma reesei* RF8694 株を利用して生産された
フィターゼを原体とする飼料添加物」の変更点

※修正箇所の欄は、意見・情報の募集時の公開資料におけるページ数等(下線部修正)

修正箇所	第 958 回食品安全委員会資料 (変更後)	意見・情報の募集時の資料
13 ページ 23～33 行 目	②<u>にじます</u> <u>にじます</u> (平均体重約 56 g、35 尾×3 区画/群) に本飼料添加物を基礎飼料である低リン含有飼料に添加し、75 日間混餌投与 (0、500、2,500 FTU/kg 飼料 (それぞれ 5.7、28.6 mg/kg 体重/日相当)) した。 なお、対照群には、基礎飼料又は通常リン含有飼料を与えた。 試験期間中に一般状態の観察、体重増加量及び摂餌量の測定等を行った。 死亡率について、本飼料添加物投与群では対照群と比較して異常はみられなかった。また、体重増加量及び摂餌量について、本飼料添加物投与による異常はみられなかった。(参照 1、34) 食品安全委員会肥料・飼料等専門調査会は、推奨添加量の 5 倍量までの混餌投与に<u>にじます</u>は耐容すると判断した。	②<u>ニジマス</u> <u>ニジマス</u> (平均体重約 56 g、35 尾×3 区画/群) に本飼料添加物を基礎飼料である低リン含有飼料に添加し、75 日間混餌投与 (0、500、2,500 FTU/kg 飼料 (それぞれ 5.7、28.6 mg/kg 体重/日相当)) した。 なお、対照群には、基礎飼料又は通常リン含有飼料を与えた。 試験期間中に一般状態の観察、体重増加量及び摂餌量の測定等を行った。 死亡率について、本飼料添加物投与群では対照群と比較して異常はみられなかった。また、体重増加量及び摂餌量について、本飼料添加物投与による異常はみられなかった。(参照 1、34) 食品安全委員会肥料・飼料等専門調査会は、推奨添加量の 5 倍量までの混餌投与に<u>ニジマス</u>は耐容すると判断した。
14 ページ 5～10 行 目	このことから、すずき科魚類であるヨーロッパスズキ及びさけ科魚類である<u>にじます</u>と同様に、本飼料添加物の対象となる水産動物においても、本飼料添加物は消化酵素により短いペプチド鎖に切断されると考えられ、ヨーロッパスズ	このことから、すずき科魚類であるヨーロッパスズキ及びさけ科魚類である<u>ニジマス</u>と同様に、本飼料添加物の対象となる水産動物においても、本飼料添加物は消化酵素により短いペプチド鎖に切断されると考えられ、ヨーロッパスズ

	キ及び <u>にじます</u> を用いた耐容性試験の結果をもって、全ての対象水産動物の安全性については外挿できると判断した。	キ及び <u>ニジマス</u> を用いた耐容性試験の結果をもって、全ての対象水産動物の安全性については外挿できると判断した。								
17 ページ 3 ～ 7 行 目	EFSA (<u>FEEDAP</u> パネル) では、2013 年に本飼料添加物の安全性を評価し、本飼料添加物に遺伝子組換えによる安全性への懸念はなく、豚（子豚、肥育豚及び母豚）及び鶏（肉用鶏及び産卵鶏）について、最大推奨添加量（豚:1,750 FTU/kg 飼料、鶏:2,500 FTU/kg 飼料）の 100 倍量に耐容し、安全性の問題はないとしている。	EFSA (<u>FEEDAP</u>) では、2013 年に本飼料添加物の安全性を評価し、本飼料添加物に遺伝子組換えによる安全性への懸念はなく、豚（子豚、肥育豚及び母豚）及び鶏（肉用鶏及び産卵鶏）について、最大推奨添加量（豚:1,750 FTU/kg 飼料、鶏:2,500 FTU/kg 飼料）の 100 倍量に耐容し、安全性の問題はないとしている。								
19 ページ ＜別紙： 検査値等 略称＞ 表 6 行 目	<table><tr><th>略称等</th><th>名称</th></tr><tr><td><u>FEEDAP</u> <u>パネル</u></td><td>Panel on Additives and Products or Substances used in Animal Feed: 動物用飼料に使用する添加物及び製品又は物質に関する科学パネル</td></tr></table>	略称等	名称	<u>FEEDAP</u> <u>パネル</u>	Panel on Additives and Products or Substances used in Animal Feed: 動物用飼料に使用する添加物及び製品又は物質に関する科学パネル	<table><tr><th>略称等</th><th>名称</th></tr><tr><td><u>FEEDAP</u></td><td>Panel on Additives and Products or Substances used in Animal Feed: 動物用飼料に使用する添加物及び製品又は物質に関する科学パネル</td></tr></table>	略称等	名称	<u>FEEDAP</u>	Panel on Additives and Products or Substances used in Animal Feed: 動物用飼料に使用する添加物及び製品又は物質に関する科学パネル
略称等	名称									
<u>FEEDAP</u> <u>パネル</u>	Panel on Additives and Products or Substances used in Animal Feed: 動物用飼料に使用する添加物及び製品又は物質に関する科学パネル									
略称等	名称									
<u>FEEDAP</u>	Panel on Additives and Products or Substances used in Animal Feed: 動物用飼料に使用する添加物及び製品又は物質に関する科学パネル									